

2月の例会報告

月に一度は同友会に参加しよう！
参加したら必ず何かを持ち帰ろう！



日立支部

2月7日(水) 日立シビックセンターにて
「社長業へシフトアップ
～いち取締役から代表取締役に就任し1年半。
見えてきた景色や課題、これからのこと～」

報告者:吉澤 幸太さん
(有)エイトプランニングオフィス 代表取締役社長
社長業へのシフトアップというタイトルで行われた日立支部2月例会 序盤は吉澤さんの人柄がにじみ出るような温かな雰囲気が始まりましたが 徐々に社長業への話に移るにつれ、温かさの中にも決意が感じられるような熱い気持ちのこもった発表になっていきました。ロジカルに現状を分析し、経営理念、経営方針などを明確にすることによって徐々に新卒者の離職率も少し改善、スタッフとの関係性をより大事にしているとの事です。最後には動画を流しながら従業員さんに向けての手紙を読みましたが とても感動的なシーンとなりました。(レポート:金井 雅明さん)



水戸支部

2月2日(木) 茨城県総合福祉会館にて
「経営指針が私をスリリングな投資家へと変えた！
～社員への投資、それは巨万の富への架橋??～」
報告者:宇野 裕市さん saku-hana*

2月例会の報告者は日立支部の洋菓子店saku-hana*(サクハナ)店主の宇野祐市さんでした。例会テーマは経営指針の実践で、例会タイトルは「経営指針が私をスリリングな投資家へと変えた！～社員への投資、それは巨万の富への架橋??～」と題してご報告いただきました。報告は宇野さんの生い立ちからお笑い芸人を目指したことや就職、修行時代のエピソードなど包み隠さず話していただき、宇野さんの語り口調も相まって会場は終始笑い声が絶えませんでした。35歳で念願の店を持ち、その後同友会に入会し経営指針成文化セミナーを受講したことにより宇野さん自身の考え方が大きく変化し、それまでスタッフが定着しないことが悩みだったのがいつの間にか辞めなくなり、社員の成長と幸せが一番の望みと言える程になりました。いま宇野さんは不安を抱えながらも社員の成長のためにお金を投資しています。宇野さんの夢は「巨万の富」を得ることです。宇野さんの考える「巨万の富」とはスタッフ達がサクハナで働く事に誇りを持ち人生かけ愛してもらえるような組織を作る事。それがサクハナ帝国になり仲間と共に巨万の富を築いて、その後仲間達とチャレンジし続けられる未来にすることです。2月例会は笑えて、しかも勇気と希望をもらえた素晴らしい例会になりました。(レポート:山崎 勝弘さん)



県央海浜支部

2月27日(水) ワークプラザ勝田にて
「売り手よし 買い手よし 世間よし
～ご縁を大切にすると地域愛から導かれた新事業～」
報告者:小田部 伸さん (有)鍋屋本店 代表取締役

参加者32名、満員の中で開催された小田部さんの貴重な経営体験のつまった学び多いご報告でした。売り手、買い手、世間に対する思いやりや感謝の気持ち、日々の売り上げや次代の変化を常に感じ、挑戦や改善しつづける姿勢や新事業への取り組みは経営には欠かせないものだと感じました。全国への米穀卸業、地産地消のブランドで地元の近所のおばちゃんたちが楽しく光輝く姿はまさに、国民や地域と共に歩む中小企業と感ずることができました。(レポート:鈴木 達也さん)



ドラゴン支部

2月15日(木) 市民ホールやたべにて
「オリエンテーション 同友会&ドラゴン支部って何??」
講師:猿田 花絵さん 茨城県中小企業家同友会事務局員

2月例会は事務局・猿田さんにオリエンテーションをお願いし、同友会の成り立ちから同友会活動を通じた学びの深め方、そして同友会の活用の仕方を学びました。入会してまだ日の浅い会員さんからは、「同友会の基本を学ぶことができた」「同友会をこれからの経営に活用していきたい」という声を聞くことができました。また、「猿田さんの説明が非常にわかりやすい」という声もあり、もっと多くの支部会員に同友会の本質をしっかりと伝えていくことが大切だを感じました。また、最後に「ドラゴン支部らしさ」として、「名前からして普通の支部ではない。大切なものは守りつつ、時代に合わせた変化と斬新なアイデアで、地域の経営者にとっての社会インフラを目指します。」と支部長から表明をしました。(レポート:青木 恵之さん)



県西支部

2月20日(火) 坂東市商工会館にて
「未来へつなぐ～ボランティア活動から学ぶもの～」
報告者:倉持 昌弘さん あげぼの洋装店 店主

県西支部2月例会の報告者は、あげぼの洋装店店主の倉持昌弘さんでした。倉持さんは、美大進学後、イタリアへ留学。帰国後事業継承し、同年、茨城県青年の船事業に携わったことをきっかけにボランティア人生が始まりました。洋装店を営む傍ら、ボランティア活動も参加する側から仕掛ける側へと転換し、自己実現のための活動へと変化していきました。地域に根ざし、様々な活動を推進していく中で、目的を共有し、共に力を合わせて活動する「協働」の重要性を感じ、そのかけ橋になること、そして地域で困っている人とそれを助けられる人、その横軸と縦軸が交わる点を『辻(道路が十字形に交差し四方から道が集まって、行き来する人が出会う場所)』と呼び、ボランティア活動を通して、その『辻』を増やしていくことが使命だと感じていると倉持さんは話します。自社においても、『必要な商品』だけでなく、『喜ばれる商品』を提供していくことがモットー、社員にもそれを理解して貰い、信頼して仕事を任せ、それに応えてくれた、だからこそ会社組織も強固なものになった。地域に対して自社がどれほど『辻』を持っているかということ、それが社会貢献にも繋がっていく。未来へ向かって、より多くの『辻』を探していきたいと熱く語ってくれました。(レポート:野口 和明さん)



例会等行事の申し込み・ご連絡には、e.doyuをご活用ください!!



<https://ibaraki.e-doyu.jp>

例会開催のご案内などメールが届いていない方いませんか?
IDやパスワードがわからなくなりました方いませんか?
ぜひ一度ご確認をお願いいたします
お問い合わせ等は事務局までお気軽にどうぞ



会員数	日立支部	県央海浜支部	水戸支部	南西支部	県西支部	ドラゴン支部
307	46	28	107	69	29	28

※2018.3.13 理事会承認時点